

有名な平面曲線

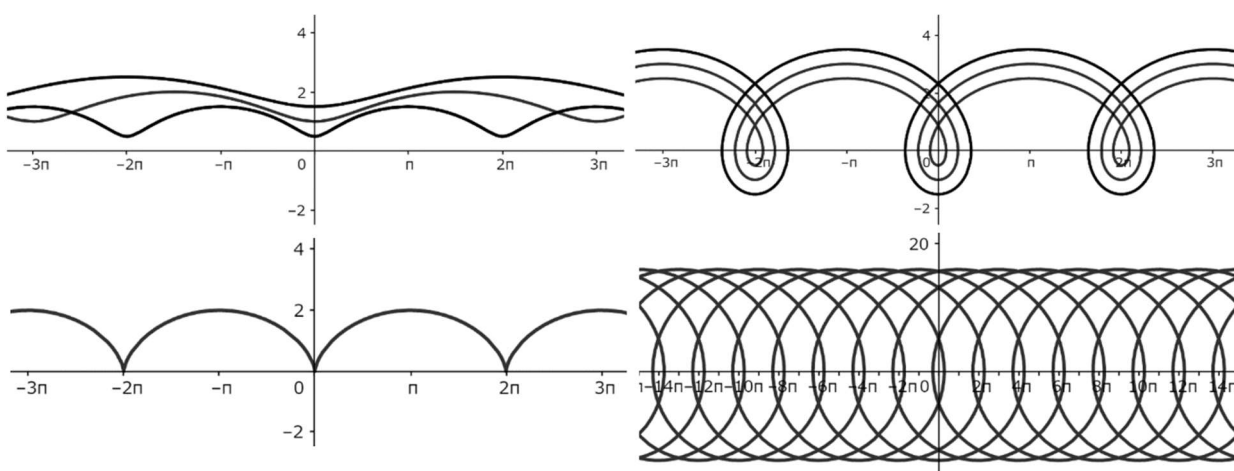
■ Trochoid 系

《Trochoid》

定直線に接しながら円を滑らないように転がしたとき、その円の内部または外部の定点の軌跡.

動円 (Moving circle) の半径を r_m , 描画点 (Drawing point) の半径を r_d とする.

$$\begin{cases} x = r_m \theta - r_d \sin \theta \\ y = r_m - r_d \cos \theta \end{cases}$$



$r_m = r_d$ のとき, つまり描画点が動円周上にあるとき, 曲線は Cycloid になる.

《Hypotrochoid (内 Trochoid)》

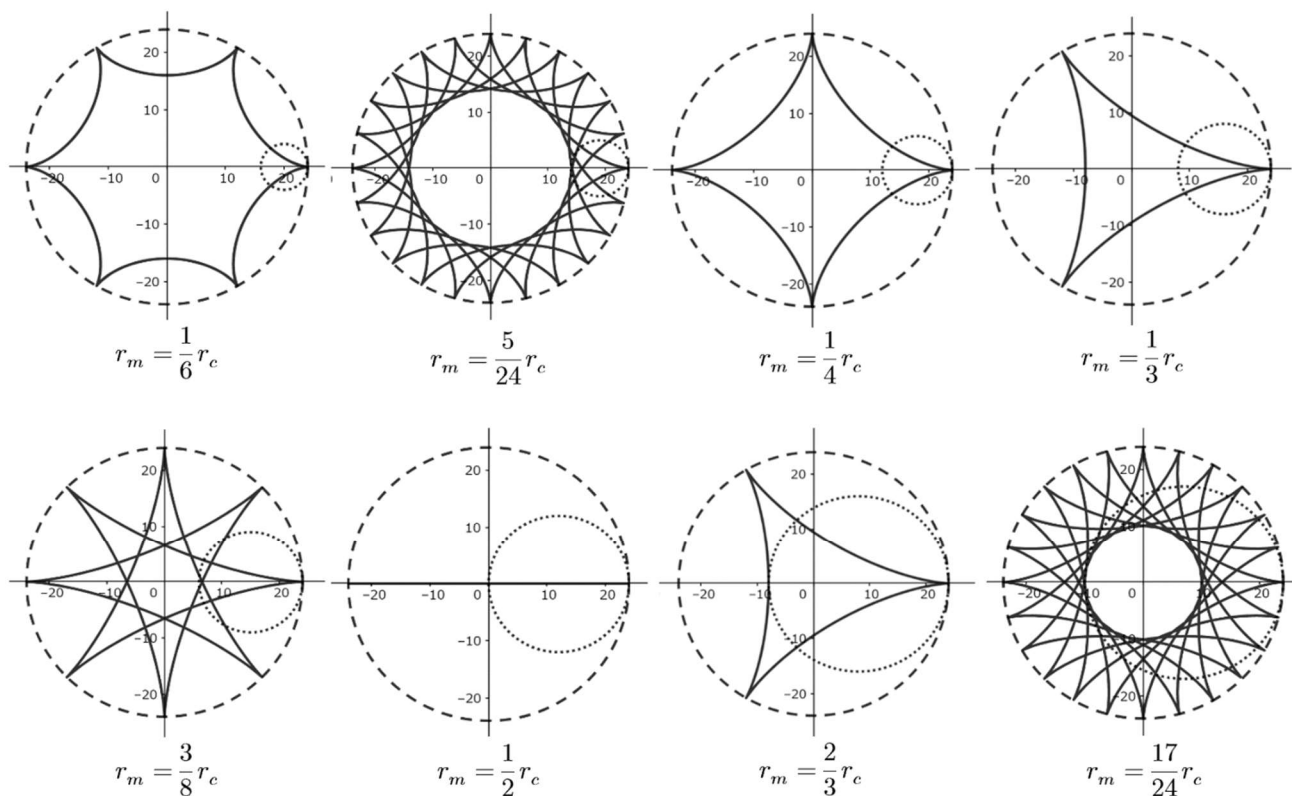
定円に内接しながら円を滑らないように転がしたとき, その円の内部または外部の定点の軌跡.

定円 (Constant circle) の半径を r_c , 動円の半径を r_m , 描画点の半径を r_d とする.

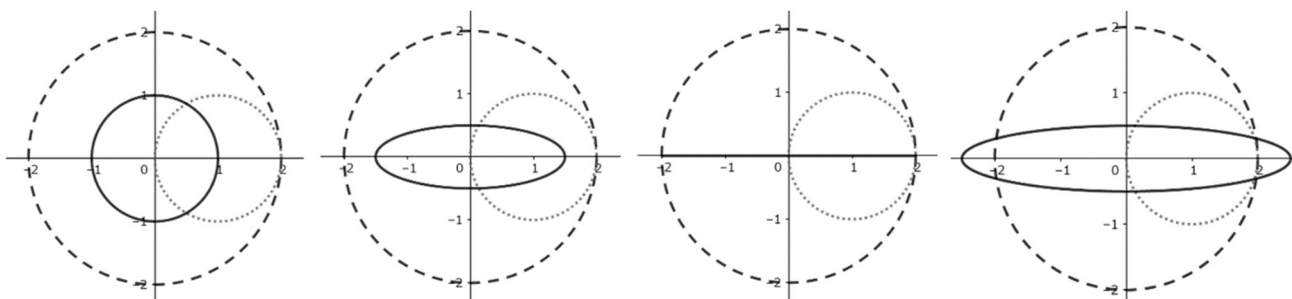
$$\begin{cases} x = (r_c - r_m) \cos \theta + r_d \cos \left(\frac{r_c - r_m}{r_m} \theta \right) \\ y = (r_c - r_m) \sin \theta - r_d \sin \left(\frac{r_c - r_m}{r_m} \theta \right) \end{cases}$$

$r_m = r_d$ のとき, つまり描画点が動円周上にあるとき, 曲線は Hypocycloid になる.

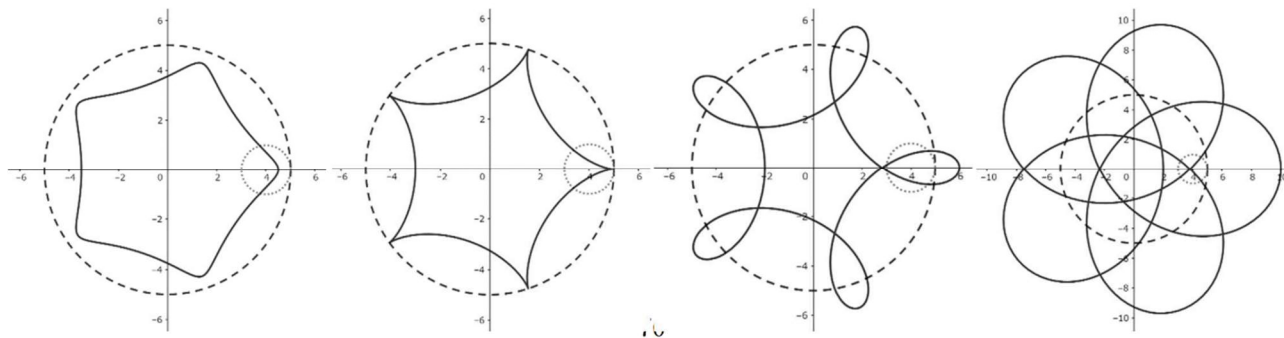
この下で, $r_m = \frac{1}{4}r_c$ のとき Asteroid (星芒形), $r_m = \frac{1}{3}r_c$ のとき Deltoid (三尖形), $r_m = \frac{1}{2}r_c$ のとき定円の直径となる.



$r_m = \frac{1}{5}r_c$ のとき, $r_m : r_d$ を 2 : 1, 1 : 1, 1 : 2, 1 : 6 とした.



$r_m = \frac{1}{2}r_c$ のとき, $r_m : r_d$ を 0 : 1, 2 : 1, 1 : 1, 2 : 3 とした. 軌跡が楕円を描くことを確認せよ.



《Epitrochoid (外 Trochoid)》

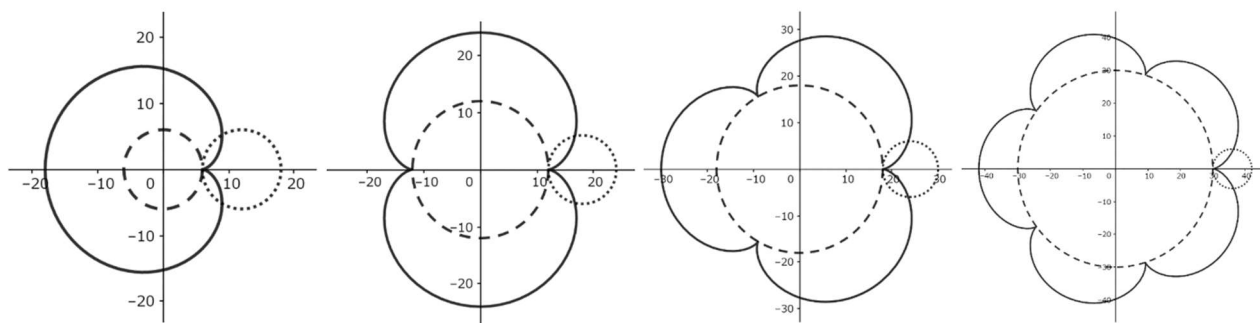
定円に外接しながら円を滑らないように転がしたとき、その円の内部または外部の定点の軌跡.

定円の半径を r_c , 動円の半径を r_m , 描画点の半径を r_d とする.

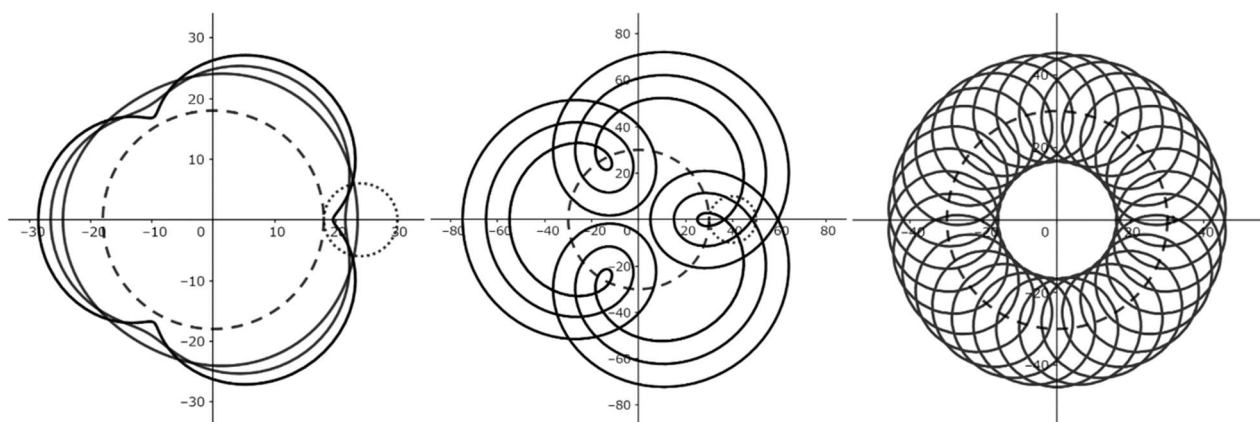
$$\begin{cases} x = (r_c + r_m) \cos \theta - r_d \cos \left(\frac{r_c + r_m}{r_m} \theta \right) \\ y = (r_c + r_m) \sin \theta - r_d \sin \left(\frac{r_c + r_m}{r_m} \theta \right) \end{cases}$$

$r_m = r_d$ のとき、つまり描画点が動円周上にあるとき、曲線は Epicycloid になる.

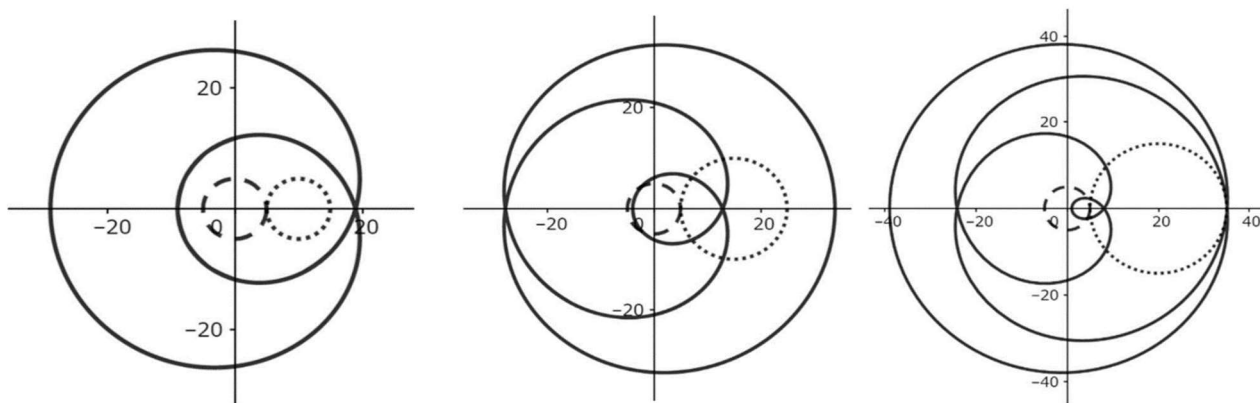
この下で、 $r_m = r_c$ のとき Cardioid (心臓形), $r_m = \frac{1}{2}r_c$ のとき Nephroid (腎臓形) となる.



$r_m = \frac{1}{3}r_c$ のとき、 $r_m : r_d$ を変えて、左、中央を得る. $\frac{r_m}{r_c}$ を小さくして右を得る.



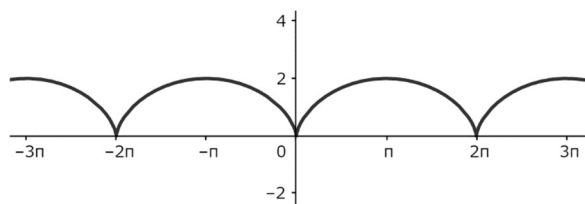
$r_m \geq r_c$ として、 $r_m : r_d$ を変えること次を得る.



《特に有名な Trochoid》

- ① Cycloid (擺線) : $r_m = r_c$ の Trochoid

$$\begin{cases} x = r_c(\theta - \sin \theta) \\ y = r_c(1 - \cos \theta) \end{cases}$$



Cycloid は最速降下曲線かつ等時曲線であり，次の微分方程式の解となる．

$$\left(\frac{dy}{dx}\right)^2 = \frac{2r_m}{y} - 1$$

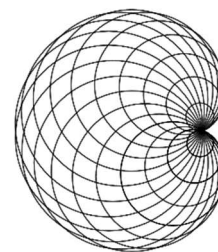
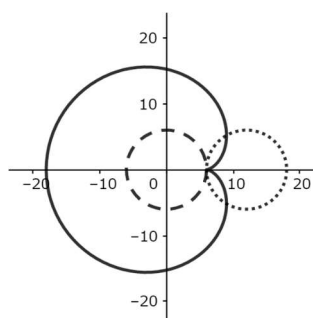
- ② Cardioid (心臓形) : $r_m = r_c$ の Hypocycloid, $a = l$ の Limaçon

$$\begin{cases} x = r_c(1 + \sin \theta) \cos \theta \\ y = r_c(1 + \cos \theta) \sin \theta \end{cases}$$

$$\text{極方程式 } r = r_c(1 + \cos \theta)$$

直交座標での方程式は

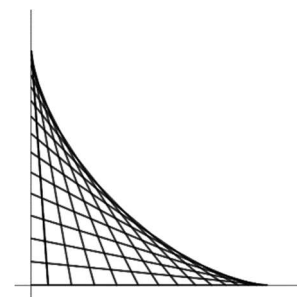
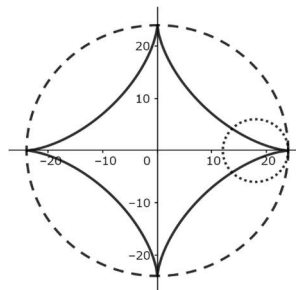
$$(x^2 + y^2)(x^2 + y^2 - 2r_c x) - r_c^2 y^2 = 0$$



- ③ Asteroid (星芒形) : $r_m = \frac{1}{4}r_c$ の Epicycloid

$$\begin{cases} x = r_c \cos^3 \theta \\ y = r_c \sin^3 \theta \end{cases}$$

$$\text{陰関数表示 } x^{\frac{2}{3}} + y^{\frac{2}{3}} = r_c^{\frac{2}{3}}$$



端点が x 軸, y 軸上を動く，長さ r_c の線分が作る包絡線となる．

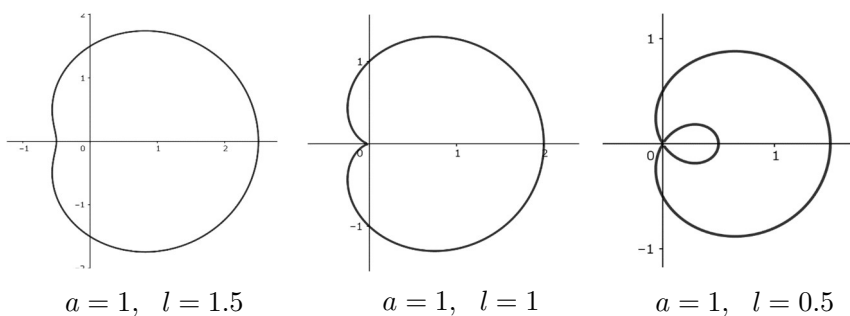
☞ 包絡線

■ Limaçon

$$\text{極方程式 } r = a \cos \theta + l$$

直交座標での方程式は $(x^2 + y^2 - ax)^2 - l^2(x^2 + y^2) = 0$

$$\text{パラメタ表示は } \begin{cases} x = a \cos^2 \theta + l \cos \theta \\ y = a \cos \theta \sin \theta + l \sin \theta \end{cases}$$



■ Lemniscate

$$\text{極方程式 } r^2 = 2a^2 \cos 2\theta$$

直交座標での方程式は $(x^2 + y^2)^2 - 2a^2(x^2 - y^2) = 0$

点 $(\pm a, 0)$ を Lemniscate の焦点と呼ぶ. 焦点から Lemniscate 上の 2 点に至る距離の積は一定となる.

$a = \frac{1}{\sqrt{2}}$ とする. 円周率と同様の Tension で Lemniscate 周率 ϖ なる数値があり,

$$\varpi = 2 \int_0^1 \frac{1}{\sqrt{1-r^4}} dr = \frac{\Gamma\left(\frac{1}{4}\right)^2}{2\sqrt{2}\pi}$$

(註) 第一種楕円積分

$$F(x, k) = \int_0^x \frac{1}{\sqrt{(1-t^2)(1-k^2t^2)}} dx$$

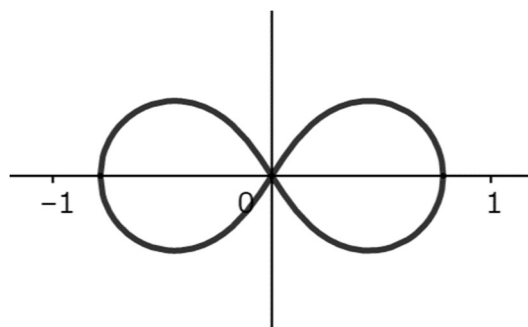
$$F(\varphi, k) = \int_0^\varphi \frac{1}{\sqrt{1-k^2 \sin^2 \theta}} d\theta, \quad (\text{Legendre の標準形})$$

$$K(k) = F\left(\frac{\pi}{2}, k\right) = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{1}{\sqrt{1-k^2 \sin^2 x}} dx, \quad (-1 \leq k \leq 1)$$

を用いて,

$$\varpi = \sqrt{2}K\left(\frac{1}{\sqrt{2}}\right)$$

(註) Lemniscate の弧長, 振り子の周期, は第一種楕円積分, 楕円の弧長, 正弦曲線の弧長は第二種楕円積分で表される.

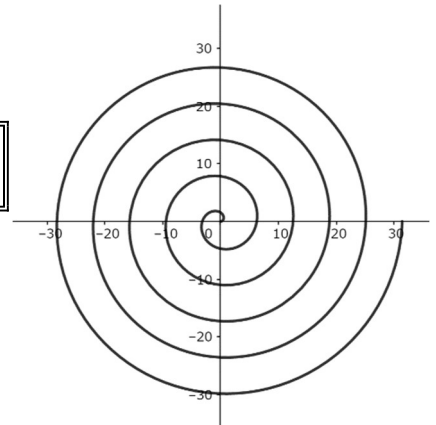


■ 螺旋

① Archimedes の螺旋

$$\text{極方程式 } r = a\theta$$

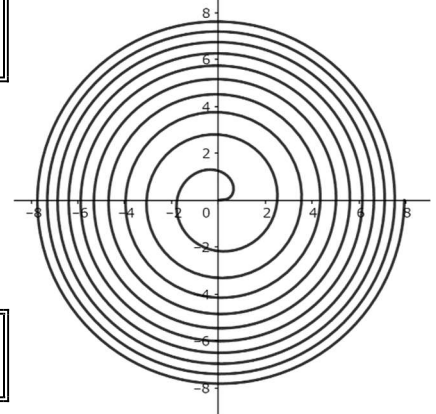
$$\text{パラメタ表示は } \begin{cases} x = a\theta \cos \theta \\ y = a\theta \sin \theta \end{cases}$$



② 放物螺旋

$$\text{極方程式 } r = a\sqrt{\theta}$$

$$\text{パラメタ表示は } \begin{cases} x = a\sqrt{\theta} \cos \theta \\ y = a\sqrt{\theta} \sin \theta \end{cases}$$

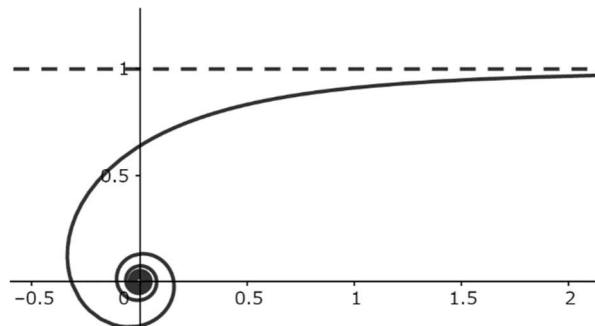


③ 双曲螺旋

$$\text{極方程式 } r = \frac{a}{\theta}$$

$$\text{パラメタ表示は } \begin{cases} x = \frac{a \cos \theta}{\theta} \\ y = \frac{a \sin \theta}{\theta} \end{cases}$$

直線 $y = 1$ に漸近する.

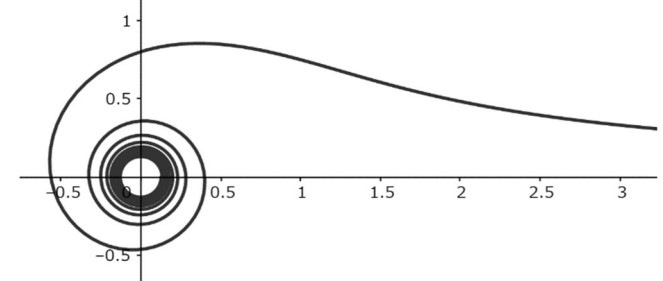


④ Lituus 曲線

$$\text{極方程式 } r = \frac{a}{\sqrt{\theta}}$$

$$\text{パラメタ表示は } \begin{cases} x = \frac{a \cos \theta}{\sqrt{\theta}} \\ y = \frac{a \sin \theta}{\sqrt{\theta}} \end{cases}$$

x 軸に漸近する.



⑤ Bernoulli の螺旋 (対数螺旋, 等角螺旋)

$$\text{極方程式 } r = ae^{\theta}$$

パラメタ表示は
$$\begin{cases} x = ae^{\theta} \cos \theta \\ y = ae^{\theta} \sin \theta \end{cases}$$

自己相似, 伸開・閉縮に関して不変である等の性質がある.

(註) 特に黄金螺旋が有名

$$\text{極方程式 } r = \phi^{\frac{2\theta}{\pi}}, r = \phi^{-\frac{2\theta}{\pi}}$$

⑥ Euler の螺旋 (Clothoid 曲線)

$$\begin{cases} x(t) = \int_0^t \cos \frac{\theta^2}{2} d\theta \\ y(t) = \int_0^t \sin \frac{\theta^2}{2} d\theta \end{cases}$$

Clothoid 曲線上の点 $P(t)$ での曲率 $\kappa(t)$ は原点 $P(0)$ から $P(t)$ へ至る弧長 $L(t)$ に比例する. つまり,

$$\frac{L(t)}{\kappa(t)} = \text{const.}$$

道路のカーブ等で直線軌道から円軌道へ遷移する際に用いられる緩和曲線の 1 つである.

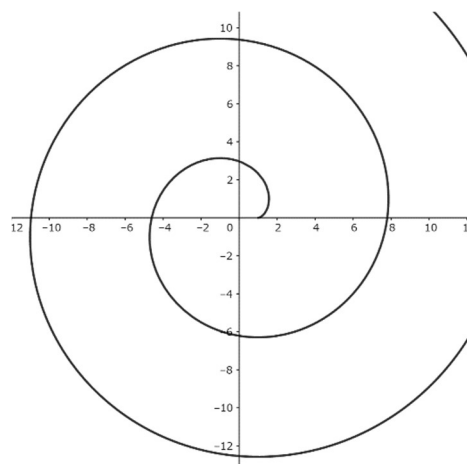
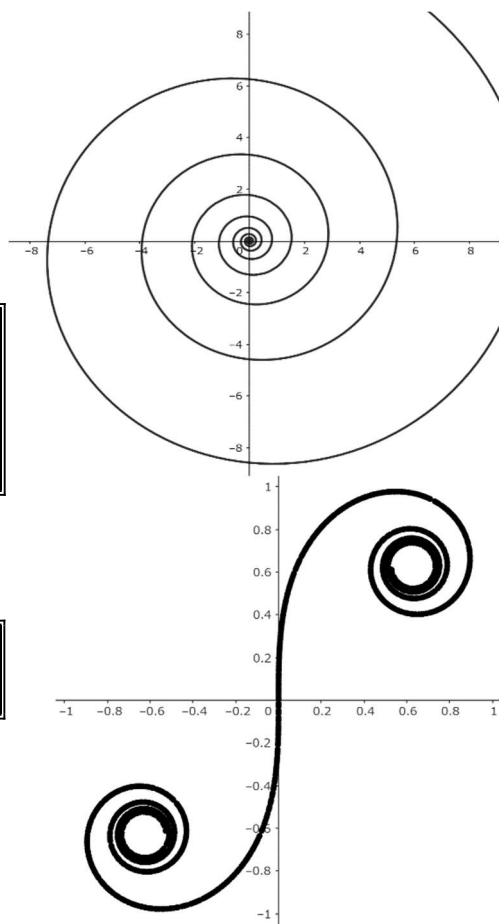
☞ Fresnel 積分

⑦ Involute 曲線

その法線が常に一つの定円に接するような曲線である.

$$\begin{cases} x = a(\cos \theta + \theta \sin \theta) \\ y = a(\sin \theta - \theta \cos \theta) \end{cases}$$

☞ 伸開線/閉縮線

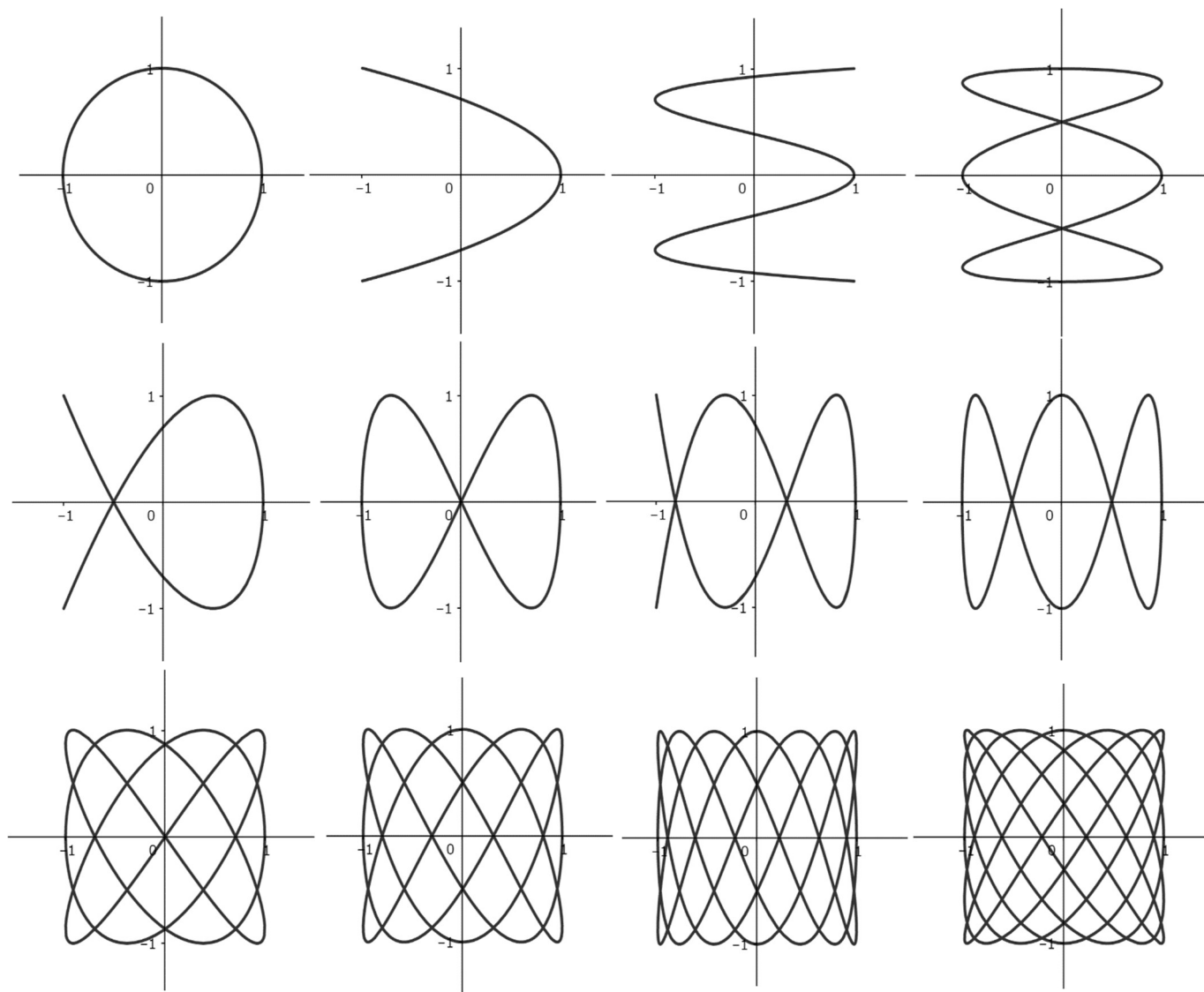


■ Lissajous 曲線

2つの単振動を合成して得られる曲線について考える.

$$\begin{cases} x = A \cos(a\theta + \delta) \\ y = B \sin b\theta \end{cases}$$

下は $A = B = 1$, $\delta = 0$ とし, a, b を整数値を取って動かしたものである.



位相差 $\delta = \frac{\pi}{6}$ のとき, 次のようになる.

